

「現在、妊娠20週。インターネットで救われた生命です」

黒田佳子（38才）

手術を乗り越えて育つ生命

着帯をしたお腹が日に日にふくらみを増して、ぴくっと小さな胎動を感じるようになりました。現在、妊娠20週目、出産までちょうど半分の時間が過ぎたことになります。

妊娠4週目で初めて足を運んだ家の近くの産婦人科で「どうやら筋腫があるようですね」と言われてからというもの、まったく思いがけなく我が身にふりかかった子宮筋腫と初めての妊娠という事態に、驚き、戸惑い、つてを頼って大学病院をはしごする日を送りましたが、結局、そこで示された解決法は母体が危険との理由から子供を中絶することでした。

妊娠の喜びが一瞬のうちに暗転する日々のなかで、最後に私がとった行動は、コンピュータの前に座りインターネットで情報を収集することでした。とにかく何でもいいから解決の糸口となる情報がほしい、そんな藁をも掴む思いで「子宮筋腫」というキーワードをたよりにサイトを片っ端からチェックし、見つけたのが広尾メディカルサイトだったのです。

そして、さらに驚いたのは、私と同じように妊娠と同時に子宮筋腫が見つかった女性たちが何人も斎藤先生の手術によって子供も子宮も救われて、無事に出産しているという事実です。体験レポートでこの事実を知った時の喜びは衝撃に近いもので、それを読むなり、もうここしかない、と決意したのです。

今、私の胎内にある小さな生命は、インターネットによって斎藤先生と出会い、斎藤先生の類い希な技術によって救われたかけがえのない生命です。感謝してもしきれない斎藤先生との出会いと、これまた初めて体験した手術のことなどについて、以下にレポートします。

あちこちの病院へ

子宮筋腫だとわかったのは今年の11月半ば頃、妊娠の兆候があって訪ねた近くの小さな産婦人科医院です。医師は内診を終えると、妊娠4週目であることを告げたあと、少し表情を曇らせて「子宮筋腫があるようですね。少し大きいようです。まあ出産は大丈夫だと思いますが、来週また来てください」と言いました。シキウキンシュ？ 初めて聞く耳慣れない言葉でした。

根が行動的で健康にはかなりの自信をもっていた私にとって、子宮筋腫という聞いたこともない病名を告げられたことはショックではありましたが、それでもその時はさほど深刻にはならず「先生も出産は大丈夫だと言っているし」と楽観的に考えていました。

大事をとって別の病院でも診てもらおうと主人と一緒に少し大きい産婦人科のクリニックに出掛けたのは、その翌週です。内診のあと、その医師は「かなり大きい子宮筋腫です。うちでは診きれないので、大学病院を紹介しますから、そちらに行ってみてください」と言いました。もしかしたら事態は私が考えている以上に大変なのかもしれない、と思ったのはこの時です。

翌週、さっそく紹介された昭和大学病院に行きました。産婦人科の長椅子には人があふれるように診察を待っており、私も待つこと3時間、ようやく呼ばれて検査室に入った時にはすっかり待ちくたびれていました。検査のあとの診断は「産めないということはありません。様子を見ましょう。来週また来てください」というもので、それ以上のことは何も話してもらえず、ひたすら「ま、様子を見ましょう」を繰り返す医師に拍子抜けしてしまいました。結局、何の解決にもならなくて、時間の無駄使いだったという思いがこみ上げて、悲しくなったのを思い出します。

「早い時期に中絶を」と宣告

どこか信頼できる病院できちんと診てもらいたくて、主人の知人に薦められた聖マリアンヌ医科大学病院を訪ねたのは、その翌週です。また初診からの出直しです。診察の結果は「このまま妊娠を継続できないとは言えない。しかし、流産する可能性もある」とのことでした。つまり、五分五分の状態なので、このまま様子を見る、ということです。

五分五分と言われれば、どうしても可能性のあるほうに賭けたいのが人情です。医師の話聞きながら私は、たとえ流産する結果になっても、このままなんとか妊娠を継続させよう、と考えていました。とにかくなんとしても産みたかったのです。

念のためにMRIの検査を受けることになり、検査日は年明けの17日を指定されました。大学病院ではMRIの検査を受けるのも1カ月先なのです。なーんだ、まだまだ先の話だわ、それまではたぶん大丈夫ということなんだ、と1カ月先の検査日を確認しながら少し安心する気持ちになったものです。

ところが、経過を診てもらうために1週間後に再び訪ねると、まったく予想に反した言葉が返ってきました。「このままではいずれ流産します。お腹が大きくなればなるほど出血が多くなり、危険な状態になります。今回は手術したほうがいいでしょう。それもなるべく早い時期に。どうしますか？」

私は何を言われているのか、まったくわかりませんでした。その日は暮れも押しつまった21日。年内に手術をしたほうがいいのかと言わんばかりの勢いで話す医師の言葉を頭の中で復唱し、ようやく理解したのは、その手術が中絶を意味していること、そして手術の決定を迫られていることでした。

それはあまりにひどい。様子をみようと言っておきながら、たった1週間で子供をおろせだなんて。でも、結論を急がなければ母体も危険にさらすことになるし...。その場で結論など出せるはずもなく、「すぐには決められません。もう少し時間をください」と言うのがやっとでした。

先生に送った涙のEメール

中絶だけはイヤだ。子供を助けなければ。でも、どうやって？ これからまた新しい病院を見つけるの？ 大学病院でこう言われてしまっただけは、もうどこに行っても同じなのでは？ いろいろな思いがいっぺんに頭の中を駆けめぐり、混乱状態のまま帰途につきました。

家に帰るなり私がしたことは、コンピュータの前に座りインターネットで情報を集めることでした。そして、出会ったのが広尾メディカルです。ホームページには筋腫の解説やクリニックの紹介が詳しく書いてあり、何よりも力になったのは広尾で手術を受けた方やそのご主人の体験レポートでした。それを読んで、もうここしかない、ここに行ってダメだったら諦めよう、と決意したのです。

さっそく初診の予約を入れようと電話をすると、なんと年内の診療は終了しており、「来年の1月11日以降に来てください」とのこと。それを聞いて私は動転し、「それじゃ間に合わないんです。お腹に子供がいるんです。でも、筋腫があって、今すぐにでも中絶するかどうか結論を出さなくちゃいけなくて、その前に何とか診ていただきたいんです」と訴えました。もう涙で声が詰まって、最後のほうは言葉になりませんでした。

しかたなく1月11日に予約を入れて電話を切ったものの、自分に対して悔しくて悔しくて、再度インターネットにつないで、自分の思いのたけを書いたメールをダメもとで直接齋藤先生に送りました。もちろんメールをすぐに見てくださるかどうかもわかりませんでしたが、それでも何かせずにはいられなくて、涙を流しながら書いたメールでした。

ところが驚いたことに、その数時間後に先生から電話があったのです。信じられませんでした。「あなた、明日来られる？ じゃ午後1時にいらっしやい」。ほんの短い会話でしたが、私には神様の声のように聞こえました。ああ、これで道が開ける、と思ったのです。

妊娠11週目で手術

初診は12月22日。その日のうちに違う病院でMRIの検査を受け、翌日、主人とともに再度クリニックを訪れ、MRIとCTの画像を見ながら先生のお話を聞きました。

初めて見る自分のお腹の様子に私は仰天しました。バレーボールくらいの大きさはあろうかと思われる球状の白い影がお腹の中にすっぽり入っている、そんな感じだったのです。そこには大腸も小腸も肝臓もない、ただ丸いものが全体を埋め尽くしていました。肝心の胎児を宿した子宮は、そのずっとずっと上の方に押し上げられる感じで、お臍よりもかなり上部にちょこんと乗っていました。

「大丈夫。子供は90%助かるよ」と先生。この時、今までの不安や恐怖が全部すーっと引いていくのをはっきりと自覚しました。

手術日は年明け早々の1月10日と決まりました。通常なら半年先まで待たなければならないところを、このタイミングを逃すと手術が非常に難しくなるという理由から、妊娠11週目の1月10日に、すでに決まっている患者さんに割り込むかっこうで手術予定者に加えていただいたのです。手術を待っておられる他の患者さんに申し訳ないと思いつつも、手術の日まで何事もなく無事に過ぎてほしいと祈る毎日でした。

手術直後「この子は強い子だよ」

1月10日の手術日。手術室には音楽が流れていました。最初はレゲエのような音楽。それは患者を音楽のほうに集中させて気持ちをリラックスさせるためだとあとでわかりましたが、初めての手術で緊張している私には音量が大きく感じられて、少し耳障りだったのを覚えています。

手術は順調に進んでいるようでした。麻酔はしているものの意識はしっかりとありましたから、手術中はとにかく明るくて楽しいことを考えようと思いました。そうだ、大好きなテニスをやっている時のことを考えよう、と思い、コートの上を自在に動いて試合に勝った時のことや、ふだんの練習で気持ちのよい汗をかいたことなどをずっと思いめぐらせていました。

それでも時折、手術台が揺れるたびに現実に戻され、ああ、今は摘出しているところかな、子供は大丈夫だろうか、と考えずにはいられませんでした。

BGMの音楽はクラシックありポピュラーありとバラエティーに富んでいましたが、最後の方には私の好きなサイモンとガーファンクルの一連のヒットソングが流れてきて、そっと声にならない声で口づさんだりして気を紛らそうとしました。

随分と時間がたったような感じがして、ああ、まだ終わらないのかしら、まだかしらと待ち遠しい思いでいると、ようやく終わったような雰囲気があたりに漂い始めました。

その時、先生が「赤ちゃんは元気だよ。こんな大手術なのに安定している。この子は強い子だよ」とおっしゃったのです。私はしゃがれた声で「ありがとうございます」というのが精一杯で、目から涙があふれてしまい、看護婦さんに拭いてもらうほどでした。

先生はこうもおっしゃいました。「筋腫がたくさん取れて、あなた、生まれ変わったんだよ、ね」。

出産予定日は7月末

摘出された筋腫は935グラム。透明なビニール袋にぎっしり詰まったホルマリン漬けの筋腫を見るにつけ、「こんなものが何年も私のお腹の中にあったんだ、こんなにもたくさん」と、信じられない思いでした。

「こんなに大きな筋腫があったのに、何も自覚症状がなかったの？」と聞かれましたが、たしかに出血の量は多めでしたが生理の周期が乱れることもなく、子宮の病気を疑うような兆候はありませんでした。病気知らずでできた私にとって、子宮筋腫という診断そのものが青天の霹靂だったのです。

摘出された筋腫の塊を目にしてからというもの、こんな大きな筋腫をもちながら妊娠したことが、どんなに稀なことなのかがよくわかります。たしかに大学病院でも家の近くの産婦人科医院でも「こんな筋腫があって、よく妊娠したね」と何度も言われましたが、この妊娠はそれだけ驚くべきことだったのでしょ。

奇跡ともいえる妊娠、そして危機一髪のところまで齋藤先生によって救われた生命。だからこそ、私の胎内にあるこの生命を本当に大切にしなければ、と思うのです。

出産予定日は7月末。おそらく、その1～2週間前に帝王切開で出産することになるでしょう。そうしたら育児でてんてこ舞いの毎日になるかと思いますが、またこのホームページで出産と育児の様子などをレポートしたいと考えています。



	術前(pre ope)
赤血球(RBC)	380
血色素(Hb)(g/dl)	12.3
ヘマトクリット(Ht)	35.7
備考	摘出物：平滑筋腫 935g

「子宮をあきらめかけている方はもう一度考えて」

後藤 旬子 (30才)

私が全摘を望んだ理由

今回、無事術後の検査を終えることができました。斎藤先生、広尾メディカルクリニックのスタッフの皆様および私の回りで支えてくれた家族や友人たちにこの場を借りて深く御礼申し上げます。

広尾で手術を受けられた方々の中で、私のようにもともと子宮全摘を望んでいた人は少ないのではないかと思います。しかし、何故そう希望していたのかを突き詰めると、これは決して私だけにあてはまる話ではないことに気づきました。後で考えると、私は世の中の情報に完全に翻弄されていたのでした。そんな私のケースをお話したいと思います。

筋腫が見つかり地元の病院で手術の話が出たとき、私が真っ先に困ったな...と思ったのは、子供のことで、将来の自分の体のことでもありませんでした。私の母がその4年ほど前に子宮癌で他界しており、娘の私までが子宮の病気であると告げれば、父や親戚の方々にどれだけのショックを与えるかと思い、それが何よりつらかったのです。

医師からは子宮癌にも遺伝の影響がある、筋腫は再発するので手術を繰り返すことになる、子宮を全摘しても体に悪影響は全くない...などの説明を受けました。幸か不幸か私たち夫婦はもともと子供は作らないことで合意していましたし、私は心臓が丈夫ではないため複数回の手術を耐えられるか心配であったことと、鬱的な精神状態に陥りやすく、このまま子宮という爆弾(すでに筋腫になり、またいつ癌になるかわからない!)を抱えていては、精神的に参ってしまう恐れがあることなどから子宮を残すのは不安でした。

また家庭の医学を読んでも、子宮を残すかどうかは本人が出産を望むか否かにかかっており、全摘しても生活に影響は全くないと説明されていたので最終的には全摘を望みました。親や親戚が知るところとなる前に、こっそり子宮を闇に葬り去ってしまおうと考えたのです。

ところが、いざ全摘をしてくださいと話す、医師たちはあなたは若いから、子供が欲しくなるかもしれない、子供が欲しくない夫婦なんて普通じゃない...といった理由で手術を拒否されました。それならどうしたら良いのか訪ねても、筋腫核出術を行い、再発するまでに子供を作りなさい、再発したらまた手術をすればよいと繰り返すばかり。どうしても子供を産ませるつもりらしいのです。

挙げ句の果てには、そんなに手術がイヤなら薬を使えばいいじゃないかと怒鳴られて唾然としました。病気を治療して健康になるという話からはほど遠い、ごくプライベートな部分での言い争いが続き、医学的な説明を求めても専門用語の羅列で話の主導権を握ろうとする医師の態度には嫌気が差しました。3件目に友人の紹介で、インフォームドコンセントでは定評があるという東京J大学病院を受診しましたが、医師の説明も対応もそれまでの病院と全く変わりなく、最終的には拒絶されてしまいました。

そうこうするうちに、私は完全にノイローゼのような状態に落ち込んでしまいました。大きな筋腫を抱えて生活している女性であれば、だれでもそのような精神状態になり得ると思います。ましてやこの間の医師とのやりとりからは、明るい将来など考えることはとてもできない状態で、ひどい無気力と憂鬱感にさいなまれました。とにかく自分の中の子宮の存在自体が恨めしく、終いには嫌悪感さえ感じ始めました。

広尾との出会い

そんなある日、インターネットで広尾のHPを見つけました。初め『子宮を残したい私たちの選択』は、私にとって関係ない話と思ったのですが、鮮明なMRI写真や患者さんの血液データまで載せてあるHPは他にはなく、ついつい釣られて読み進むうち、いくつもの疑問が私の中にわき起こりました。

子宮をとったら体に悪いの？薬は効かないの？筋腫が再発しない手術もあるの？今までの医師たちの話とはかなり違いがあるので、にわかには信じられませんでした。そこで、図書館や書店で筋腫の本を探しまわり、とにかくデータを集めてみようと思ったのです。

また、斎藤先生にも直接メールで疑問をぶつけてみることにしました。その結果はつきりしたのは、今までの医師たちの説明や本に書いてある筋腫治療に関する話と、斎藤先生の説明の間には非常に重要な部分で違いがあるということ。そして、斎藤先生の述べておられることを裏付ける話が、全摘手術を受けた患者さんの体験談から見つかったのです。斎藤先生のおっしゃるとおりなら、子宮を全摘すれば卵巣の退縮が生じるため心身ともに快適な健康生活など到底望むことなどできそうにありません。

私が望んでいたことは、少しでも健康な状態で生活したいということだったはずですが。斎藤先生の方法によって、子宮を残した上で健康な生活がおくれるのであればこれ以上の選択はないのではないのでしょうか。

手術の決心

先生に初めてお会いした時のことは忘れません。たくさんの情報と医療に対する不信感で頭をいっぱいにし、しかしどこかでこの先生に賭けたい、救われたいという期待もあって大変複雑な心境でした。

一通りの説明の後、先生は「子供を産まないことと、産めないことは違うんだよ」とおっしゃいました。その言葉が私の中で決定打となり、手術の決心となったのです。

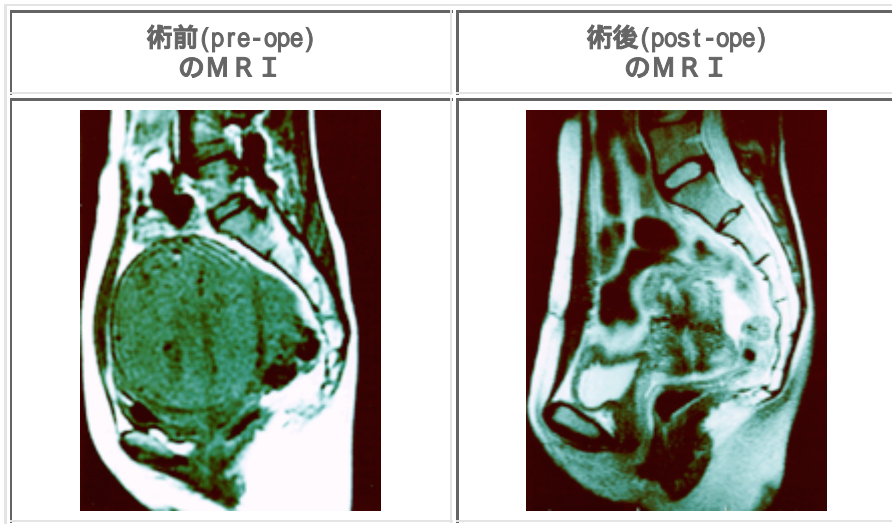
そして、やせぎすの私の体から600gの筋腫が摘出され、手術は終わりました。あまりに長い間、大きなものを抱えていたために、急に本来の位置に戻った胃腸が動き出してくれず、入院生活の後半は吐き気と嘔吐に伴う傷口の痛みとの戦いでした。それでも、もし子宮をとっていたら体も心もこんな痛みでは済まなかったと思うと、広尾で手術を受けられたことに感謝し、耐えなければいけないという気持ちになりました。

不思議なことに手術後、子宮が元気になったような気がしてあんなに心配だった子宮癌の恐怖が薄れてしまいました。ちなみに子宮癌の遺伝的な要因は立証されていないそうです。私の選択を、死んだ母もきっと喜んでくれたのではないかと思います。

振り返ってみて

全てが終わった今、振り返ってわかることがあります。世の中で定説として言われていることが、必ずしも正しくはないということです。私は計らずしもそのからくりにつかかってしまい、危うく自分の体を希望とは反対の不健康な方向に持っていくところでした。

医学界の通念が、患者や医師の治療に関する選択肢をせばめているとも言えると思います。そのことは、情報を鵜呑みにして自分で考えようとしなかった自分への反省点としても深く受けとめたいと思います。広尾には心から感謝しています。ありがとうございました。そして、私のような理由で子宮をあきらめかけておられる方には、もう一度考えていただけたらと思います。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	486	456
血色素(Hb)(g/dl)	13.8	13.2
ヘマトクリット(Ht)	41.1	39.2
CA19-1	110	11
備考	生理時 : Hb 7 摘出物 : 平滑筋腫 600g 内膜ポリープ 0.1g 腺筋症 10g	

「アンティープの風に乗って…」

フランス在住
琴多樹瑠（38才）

半信半疑のまま日本へ…

2000年を迎えようとしている前年の秋、私はここ、南フランスのコート・ダジュール（紺碧海岸）といわれる一帯にある港町のひとつ、アンティープをあとに、ニース空港からフランクフルトを経由して成田に向かった。久しぶりの日本。目的は沢山あったが、その一つは“広尾メディカルクリニック”。

インターネットで見つけたひとつの出会い。機内の私はまだ半信半疑。いくら体験談が載っていたとしても、それを鵜呑みにはできない。癌から水虫まで何にでも効果があるようなうたい文句の健康食品や、顔と体が明らかに違う人の合成写真と判る、やせるための商品だって‘体験談’が載っているもんね。

自分の目でクリニックと医師を確かめなくちゃ！
怪しいドクターだったらやめようっと。
小さなけがは沢山あれど、手術となったら初めてだもの。
親にもらった大事な身体。簡単に傷つけるわけにはいかないわ。

インターネットで‘子宮筋腫’を検索してみた時は、特に何も期待していなかったように思う。高校生の時からメンスの度に、痛みと貧血で随分と苦しんできたけれど、ひどいのは2日間ぐらいで、今まで鎮痛剤や漢方薬やらで何とか暮らしてこれた。

ところがどっこい！
数カ月前のメンスの時、何日経っても血が止まらなくて、それも半端な量じゃないし、『このままじゃ、私、死んじゃうよ～』って思った。近所のクリニック（フランス人ドクター）を訪ね、増血剤とピルを処方してもらって3ヶ月間決まりどうりに飲んだけど、これって、根本的な解決にはならない。

エコーも撮った。ドクターの結論としては、貧血がこれ以上ひどくならない内に切った方がいいってことだった。でも、私の子宮は無事に済むのだろうか。それが問題だ！

不安や疑問が薄れ、手術を決意

たどり着いた“広尾メディカルクリニック”。
全然クリニックらしくないのだ。普通のお家みたいだ。
斎藤Dr. はというと、ひょうひょうとしていて、芸術家みたいな感じ。
スタッフもみんなとても感じがいいし。
覚悟していた内診がなくて、他の病院とは違うなあ。

せっかく行ったんだから、MRIとやらだけでも撮ってみようとして予約状況を聞いてもらったら（近所の提携病院に撮りに行く）、幸運なことに夕方からできることになった。

検査に行くまでの時間、アメリカから術後検診に帰国したというM子さんと、2階のリビングでいろいろなことを話す機会に恵まれ、不安や疑問が薄れていった。斎藤Dr. も話に加わって、不思議な魅力を振りまいている。

数時間後、検査結果を持参して再び、斎藤Dr. のもとへ。淡々とした、しかし暖かさが伝わってくる説明に、手術を受けることを決意した。

手術って腹べことの戦い？！

初めにクリニックを訪ねた翌月、いよいよ手術。

超！楽天的な私は歯医者さんに行くのと同じような心持ちで入院。

これも斎藤Dr. の人柄がなせる業かな？（全幅の信頼を置いている証拠だよ。）この日の3番目の手術ということで、時間はたっぷり。

看護婦さんは可愛くて優しいし（優しいだけでなく、厳しい面もあることが、術後わかった。それは全て患者のために。）、緊張感もなく、個室だし、取り揃っているビデオテープの中から見たかった映画を選んで、2本も観賞しちゃった。

でも・・・あ～、お腹が減って死にそうだなあ。のども渴いたし。砂漠でお水がない時みたい。頭に浮かぶのは、美味しそうな食べ物とキ～ンと冷えた飲み物ばかり。

さて、手術。

1時間45分の貴重な体験。

麻酔のドクターが『痛いですよ！』と何度も言うので、覚悟したのに麻酔はそんなに痛くなかった。これくらいへっちゃらだい！

斎藤Dr. も看護婦さん達も、今までよりずっと真面目な面持ちだ。

手術中、麻酔のドクターが『眠くなったら寝ていいですよ。』と何度も声をかけてくれたけど、お腹を切っている感覚はないのに、頭は起きていて眠れない。

しかし、B.G.M.に大好きなレゲエミュージックがかかった途端に、私は吸い込まれるように深～い眠りに落ちていった。斎藤Dr. が後日、『劇的だった。』っておっしゃった。好きな音楽が腹べこを忘れさせてくれたのかな。

手術中、夢を見た。夢の中でも手術を受けていて斎藤Dr. が『終わったよ。』と言ったから目を覚ましたのに、本当はまだ終わっていないで、その後が長く感じて大変だった。

お腹の中を引っ張られている感じがして、ウエ！気持ちが悪いよ。筋腫を引っ張っているのか、縫合のためにお腹の肉を引っ張っているのか、私にはわからないけど、早く終わってほしいなあ。なんてたって、私は腹べこなんだから。

普通の歩幅で歩けるじゃないの

翌日は頭がク～ラクラ。こんなクラクラ経験は初めてだけど、手術はうまくいったんだし、元気になるためにがまんするんだ。

切り取った筋腫との御対面は、想像していたモノとは違っていた。フニャフニャしているかと思っていたのに、コチコチ、コリコリ。ふ～ん、こんなのがお腹に陣取っていたのか・・・

斎藤Dr. が様子をみにやって来て、筋腫が全部とれたこと、子宮が温存できたこと、そして『卵巣も卵管もきれいでした。』とおっしゃった。ジワジワとうれしさが込み上げる。

自分ではまだ見ることができないので、気になっていた傷の大きさをたずねたら、『あなたのクチの大きさくらいだよ。』と言って、親指と人さし指で示してくれた。

そうか、私の可愛いおちょぼ口(?)と同じくらいか。安心、安心。

手術後、最初に飲んだお水の美味しかったこと！

自力でお手洗いに行けたらお水が飲めるとあって、がんばったもんね。

食事毎も毎回きれいに全部食べた。友人が差し入れてくれたプリンとかもしっかり平らげて、日に日に元気になる感じ。

あっという間の入院生活。

斎藤Dr. がつくってくれた、思い出の手術記録のファイルを胸に退院。

小股でチョコマカ歩いている私に、斎藤Dr. が“活”を入れた。『普通に歩けるんだよ！』って。

おっかなびっくり、大股で歩く気持ちで足を出してみた。本当だ。普通の歩幅で歩けるじゃないの。すごいわ！

ビキニで日光浴

一緒に入院していたN子さんとは、仲良しになって、今もe-mail交換をしている。近い将来、彼女はここに遊びにやってくる予定。ふたりが数カ月前に手術したなんて、地中海の太陽も風も波も、きっと気がつかないね。

先日、今年になって初めて、水着で海辺に体を横たえて日光浴したんだけど。何よりも嬉しいのはビキニの水着から傷が全然でないってこと。元気になって本当に幸せ。ありがとうございました。

斎藤Dr.にはできる限り現役でいてほしいなあ。

でも、いつか引退ということになったら、国技館でも借切って、子宮を助けてもらった女性達を集めて、パーティーをしましょうよ。

そして、その後は、広島原爆の語りべとして、いつまでもお元気でいてほしいですね。

方向音痴と花粉症の人は気を付けた方がいいかも・・・

これから手術を受けようとしている人で、方向音痴の人と花粉症の人はいますか？広尾M.C.は、“鶴見川橋”のすぐ近くにありますが。川にはたくさん橋が架かっていて、違う橋を渡ってしまうと迷子になるかもしれません。

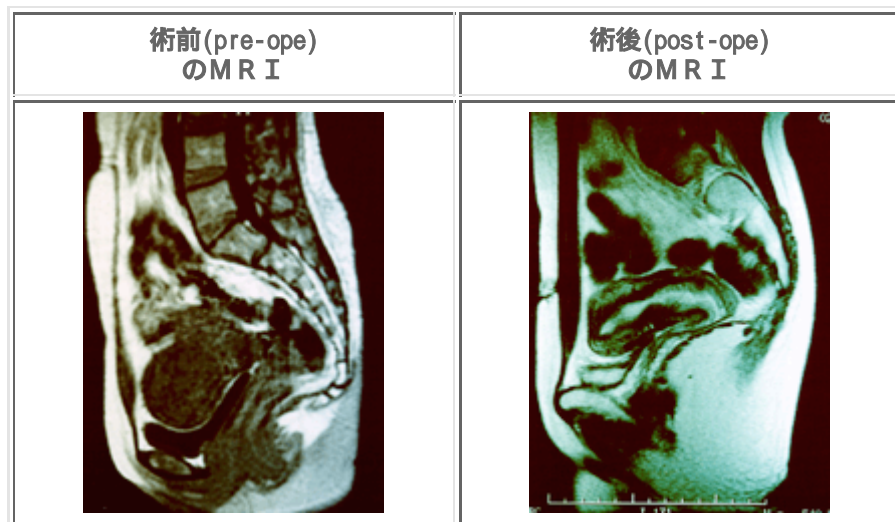
“鶴見橋”っていう似た名前の橋もあるから御用心！

入院前にクリニックから送られてくる諸々の説明にはちゃんと書いてあるんだけど、方向音痴の私は、術後検診の時にタクシーの運転手さん（地元の運転手さんではなかったし）に説明できなくて、迷ってしまいました。一度知っている所だから大丈夫と思って油断したせいです。

それから、術後しばらく、クシャミや咳きが傷にひびくので、花粉症の人は時期を選んだ方がいいと思います。私は毎年ここで、ミモザによる花粉症になっています。もう、傷は全く痛まないのが平気ですが、もし、手術の時期の選択を誤っていたら、と思うと、ゾッとします。

ヘックション！ あっ、失礼しました。

同じ病気で悩み、苦しんでいる女性達が、1人でも多く広尾M.C.のドアをたたいて、明るく、幸せになってくれることを心から願っています。ごきげんよう。



保存された子宮と摘出物

	
<p>術後の保存子宮 (conservative Ut.)</p>	<p>筋腫 (myoma)</p>
	
<p>子宮内膜ポリープ (endometrial polyp)</p>	<p>腺筋症 (adenomyosis)</p>

	術前 (pre op)	術後 (post op)
赤血球 (RBC)	413	416
血色素 (Hb) (g/dl)	13.5	13.9
ヘマトクリット (Ht)	39.2	39.4
備考	前回血液検査：Hb 9 摘出物：子宮筋腫 230g 子宮内膜ポリープ 5g 腺筋症 10g	

「海よりも深く感謝しています」

「筋腫気味」と言われる

私は現在、アメリカ領の小さな島に住んでおります。島にあるホテルで働きながら5歳になる娘と二人で暮らしています。いつから私の体に腺筋症が潜んでいたのでしょうか？5年前に娘を無事に妊娠、出産していますから、その後ということになるのでしょうか。

娘を出産後、一度激しい生理痛と血の固まりの混じった出血があり、驚いて当地の中国人ドクターの診察を受けたことがあります。その時は結局、何の病名も得られませんでした。それ以後はそれほど激しい生理痛もなかったため、そのまま何回かの生理を過ごしました。

それから1年ほどして、日本に帰国した際に、気になって病院に行くと「子宮が少し大きくなっていて筋腫気味」と言われましたが、「外国に住んでいるんじゃホルモン治療も難しいね。しばらく様子を見よう」ということでした。本を読んで自分なりに調べましたが、どの本も「子宮を取る」か「様子を見る」という曖昧な記述ばかりでした。

生理が重いのは遺伝的なものなのか知りたかったのですが、母もすでに他界していましたし、痛みもあまりなかったため、その後2年ほどは病院にはかかりませんでした。

帰国時に病院をまわる

激痛に耐えられなくなったのは98年の暮れ。年が明けてから、今度はアメリカ人のドクターに診てもらいました。こちらでは国の保険制度がなく、個人で、あるいは会社が加入している医療保険に入ります。この時のドクターの診断は「ガンの恐れもある」とのこと。ガンというのは誤診だろうと思いつつも心配でした。

こちらには日本語の本はもちろん無いですし、レントゲンやエコーを撮るのも予約制で、何週間も先にならないと撮れません。現に妊娠から出産を通して1回もエコーを見ることができませんでした。

そんなわけで、当地では病気を診断することすらどんどん先送りになるだけです。日本に帰国した際に調べることにして、99年3月の出張時に上司の許可をもらって病院に行きました。私は日本の健康保険には入っていないので、経費は100%自己負担です。

どうしても「子宮保存できる」という答えが欲しくて病院をまわりましたが、何軒行っても答えは同じ。「子宮筋腫だから、子宮を取るかホルモンのいずれかだけど、あなたは外国にいるから通院できない。取ってしまいなさい、子供は一人いるからいいでしょう」。

皆さんも言われてきた言葉だと思いますが、残酷ですよ。4日間の日本滞在中は病院ばかり行っていました。

アレルギーに悩まされる

この頃には、生理でない日でも駅の階段を登るのさえ苦しくて、心臓が爆発しそうでした。なにしろとても疲れるのです。娘と二人きりの生活なのに思うように家事ができず、お弁当も疎かになり、ビーチにも連れて行ってあげられず、どす黒い肌の私がいきました。

子宮の病気ひとつでこんなにも疲れるものか、と思う日々で、娘に優しく接してあげることもできず、子宮という臓器の大切さがわかった時でもありました。

アレルギーにも悩まされました。夕方やシャワーの後に、蚊に刺されたような発疹が皮膚の軟らかい内股やお腹にできて、それが体中に広がって世界地図のようになります。もちろん痒くて掻きますから、体中が熱をもって家事どころではありません。

市販の痒み止めを塗って一応は収まりますが、肌はボロボロでした。毎日これの繰り返しです。生理の辛さよりもっと深刻だったかもしれません。

このアレルギーについては、日本に帰国した際に行った病院で「筋腫が他の臓器を圧迫しているため普段から血管が緊張していて、それが入浴などでリラックスした時に血管が膨張して発疹がでる」などと言われました。この説明は納得できました。なにしろ、手術したその日から現在に至るまで、まったく出なくなったのですから。

救ってくれるドクターは必ずいるはず

日本からこちらに戻ってからは、子宮をとることに納得できず、仕事も手につかず、誰にも相談できないまま仕事机に向かっていました。こんなに医療が発達してクローンができる時代に、私の子宮を救ってくれるドクターは絶対いるはず、との思いから、毎日一番利用しているインターネットで「子宮筋腫」と検索してみたのです。

現在は離婚していますが、また懲りずに再婚しようと思っていますし、1億分の1の可能性でもいいから子供が欲しい。この思いが私を強くしていました。

すると、ありました！ 広尾のホームページに出会ったのです。私の心はパッと明るくなりました。早速、有頂天で国際電話をかけ、診察日を決めました。そして、その日に合わせて無理矢理日本出張を決め、6月を待ちました。

待ちに待ったその日が来ました。斎藤先生はホームページで見たのと変わらず穏やかなルックスの方で、広尾の病院らしくない外観とともに私を安心させてくれました。今までは冷たく「外国から来た人じゃね。治療もできないよ」と言われ続けてきた私にとって、広尾は安息の場所になりました。

諦めないでよかった

診察では今まで言われたことのない「腺筋症」という病名でした。でも先生は「救えるよ」と一言おっしゃいました。（子宮取らなくてもいいんだよね）と心の中で先生の言葉を噛みしめながら、先生の机の前で腺筋症について聞きました。腺筋症は子宮の内膜にできるちょっと厄介な病気とのことですが、先生は絵に描いて説明して下さい、おまけに医学書のコピーまで下さいました。その場で手術の予約を入れて、一番近い8月の手術日の3人目に無理して入れていただきました。

帰り道、晴れ晴れとした気持ちで、広尾のそばの川沿いの道を駅に向かってゆっくり歩きながら、（諦めないでよかった）とやっぱり泣いてしまいました。

血液検査では貧血もひどかったので、それまで続けていたホルモン剤で生理を止める注射をこちらで6、7、8月と手術まで3週間ごとに打ちました。

しかし、生理を止めていたにもかかわらず、手術も近くなった8月初め、日本から皆さん誰もが知っているVIPが私のホテルに滞在し、朝から夜中までそのコーディネートで疲労はピークに達し、大量に出血してしまったのです。30分ごとに夜用ナプキンを交換しても、車のシートや着替えの瞬間にポタポタ落ちる血液は情けなかったほどです。私はベジタリアンで肉類は全く食べませんから、その翌朝からは普段にもまして、ほうれん草やレバーペーストをパンに塗って食べ、貧血対策をしたものです。その甲斐あってか、手術前の検査では血色素の値も一定の量に達していました。

筋腫の塊にびっくり

手術当日は朝9時に広尾に行き、病室で休んでいると、先生が入って来られて「安心して待っていなさい」とおっしゃいました。誰にも打ち明けず、付き添いもなく一人っきりで外国から来た私に、先生をはじめスタッフの皆さんが気に掛けてくださり、病室をよく覗いてくれました。

私の手術は3番目で、始まったのは午後9時を過ぎてからでした。丁寧に麻酔をされた後、お腹を切開されるのがわかりましたが、かすかな音楽と眠気で3時間近くの手術はあっという間の時間に感じました。

途中少し痛みを感じて、大袈裟な私は麻酔の先生にすぐ麻酔を追加してもらい、痛みは殆ど感じませんでした。この夜は意識がはっきりしないまま、眠っていたのか起きていたのか、よく覚えていません。夜中に一回だけ看護婦さん呼びました。

次の日は無性に喉が渴くのですが、水はまだお預けでした。「起きられるようになったら、歩いたりしてごらん」と先生に言われたのですが、同じ日に手術したお二人に比べて私は回復が遅かったみたいで、横になってばかりいました。

びっくりしたのは手術して取り出した筋腫がビニール袋にホルマリン漬けになって、いつの間にかベッドの横に運ばれていたことです。「この塊が私を苦しめていたのか」と悲しいやら嬉しいやら...、こんな病院はここだけでしょう。

他の病院では考えられないことばかり

傷口が痛くて痛くて死にそうだった、と言うのは全くの嘘で、たしかに痛みはありますが、切っているのですから当然です。ガスが出やすいようになるべく起きていましたが、私の場合、普段見られない日本のTV番組を見てばかりいて”大笑い”していましたから、それで笑うと傷口が痛くて、それからはシリアスな番組を見るようにしていました。

座り込んでTVばかり見て笑っている私を不思議に思った先生は、事情がわかるとビデオテープを買ってきて下さいました。おかげでたくさんの日本のTVを録画して帰ることができました。優しいですね。大きな病院では考えられないことばかりです。

その後、木曜日には念願のシャワーです。お腹にべったり大きなテープを貼ってシャワーを浴び、気持ちよくきれいな身体になりました。金曜日には2Fのリビングルームで手術を受けた三人と、これから手術を受けられる方、そして看護婦さん達と午後のティータイムです。

おしゃべりな先生と私は何時間も話し続けました。あとのお二人が異常に早く回復されていてびっくりしましたが、三人とも手術前より明らかに顔色も気持ちも明るくなって幸せでした。

先生からいただいたファイルには、手術で摘出したあの醜い筋腫の塊や手術中の子宮の写真、おまけに広尾の院内や外観の写真まで添付されていて、手術室へ入室した時間や麻酔薬の量までも記されていました。こんな詳細な記録は、患者のことを大切に思うとともに、ご自分の手術に自信がない限りはできないことです。

娘とビーチを走る毎日

健康を取り戻してこちらに帰ってきた私は後日、ガンだと誤診した当地のアメリカ人の医師にファイルを差し出しました。彼は“CONGRADULATION”と言って握手をしました。

術後7ヶ月経った今、手術の傷口は完全に塞がり、色も赤紫から赤、ピンクに変わってきて、1年経つ頃には消えそうです。あんなに酷かったアレルギーも全く出ないし、心臓のドキドキもしなくなって、ゴルフやフィットネスジムにも通っています。仕事帰りには、心配をかけた娘と一緒にビーチを走っています。

生理の量は、以前は1日に10枚以上使っていたナプキンは、5日間で10枚に減りました。血液の塊も全く出ないし、生理痛もありません。本当に今は物足りないくらい、もう生理終わり？って感じなのです。不思議なことに、手術前にあんなに食べていた「氷」を全く食べなくなりました。飲み物に入っている氷を全部がりがり噛んで、お替わりまでしていたのですが、今では全く食べません。これは私だけだったりして...

先生、看護婦さん、事務長さん。本当に海よりも深く感謝しております。今、手術を迷っておられる方、これだけは真剣に考えて下さい。自分の知らない間にも子宮の病状は進んでいるし、先生の後継者は今のところおられません。

子供を望まない方でも子宮は本当に大事ですし、なにより筋腫などをかかえていては、今後皆様も私のような症状になってゆくでしょう。健康に勝る幸せはありません。体も心も健康にしてくれた先生と出会えたインターネットに感謝します。ありがとうございました。本当は、もっともっと書きたいのですが、先生、いつまでもお元気で。最後まで読んでいただいてありがとうございました。

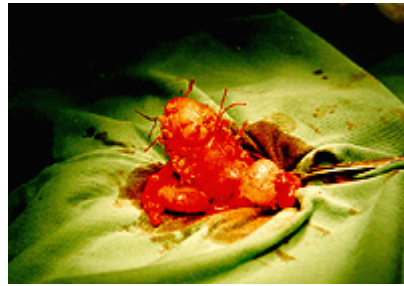
術前(pre-ope)
のMRI



保存された子宮と摘出物



腺筋症
(adenomyosis)



術後の保存子宮
(conservative Ut.)

	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	356	521
血色素(Hb)(g/dl)	7.0	13.6
ヘマトクリット(Ht)	23.6	40.7
CA-125	74	24
備考	摘出物：95g 病理：腺筋症	

「まさか」でも「やっぱり」の術後の妊娠

長島 薫（29才）

長男出産後に生理不順に

生理が長びくようになったのは、長男が1歳半を過ぎて目が離せない子育て真っ最中の時でした。生理が始まると2週間から20日間くらい出血が続き、やっと終わったと思うとすぐにまた次の生理が始まるというありさまで、晴れ晴れとした気分とはほど遠い毎日を送っていました。

ひと月の半分以上は出血しているので絶えず貧血気味で、長男を公園に連れて行くのもやっとの思いでした。きっと青い顔をしていたのでしょう、公園で会う友達からは「大丈夫？」といつも心配されていました。

平成9年の春には、生理が長びくうえに量も多くなっているのを自覚するようになり、初めて病院に行きました。最初に行ったのは近所の個人医院で、年配の先生は「子宮筋腫だが、放っておいても大丈夫。しばらく様子を見ましょう」と言い、治療らしいことは何もせずに帰されました。

放っておいても大丈夫と言われても、相変わらず出血はだらだらと続いています。とても納得するわけにはいかず、やはり大きな病院でないとダメだと思い、いい女医先生がいると聞いて東京女子医大病院に行きました。しかし、ここでの診察の結果はとてもショックでした。

いきなり「全摘ですね」と告げられ、女医先生はまわりの助手の先生にも意見を求めたあげく「子宮を残すのはやっぱり無理よねえ」と言いました。

出血が止まらず、選択を迫られる

「放っておいても大丈夫」という個人病院と「全摘」という大学病院、そのどちらの診断も受け入れることができず、次に行ったのは住まいに近い昭和医大病院の分院です。そこでは「ホルモン治療で筋腫を小さくしてから、核出手術をしたほうがいいでしょう」と言われ、スプレキュアをすることになりました。

しかし、スプレキュアを始めるとすぐに気持ちが悪くなって、続けることができず7日間で中止。しばらく様子を見ることになりましたが、状態が改善されたわけではありません。改善どころか、そうこうしているうちに出血が止まらなくなってしまいました。

ひとつの病院の診断だけで決めてはいけないと思い、セカンド・オピニオン、サード・オピニオンを求めて病院をまわっている間に、皮肉にも病気は進行して、早急にどの病院でどのような治療を受けるかを決めなくてはならない事態になってしまったのです。しかし、納得して治療を受けたいと思える病院はどこにもありませんでした。

「こんな病院もあるよ」と広尾のことを教えてくれたのは主人でした。インターネットで検索して広尾のホームページを見つけ、プリントしてくれたのです。平成9年の6月、広尾のホームページが開設されてまだそれほど日がたっていないようでした。

今ではこの「体験談レポート」に50人近い患者さんが体験談を寄せていますが、3年前はまだ6～7人ほどだったのでしょうか、それでも子宮保存手術によって元気になった患者さんたちの体験談には子宮が救われたことへの感謝があふれていました。

正直なところ、最初は有名な大学病院が「全摘」と診断していることを個人病院が「子宮保存できる」と判断することに戸惑いがありました。大学病院でできないことがどうして個人病院でやれるの？という疑問と、自費診療である点が気にかかって、広尾で手術することをすぐには決断できませんでしたが、そうしている間にも出血は続きました。

手術後1年半で「まさか」の妊娠

「広尾に決めたら」と、迷っている私の背中を押してくれたのは主人でした。何よりも子宮が残せるという点を主人は判断の決め手にしたようです。私自身ももちろん子宮保存を望んでいましたから、主人が理解を示してくれたことで迷いは消え、とにかく早く元気な体になって長男を育てなければという気持ちで手術を決断しました。私の両親も主人の両親もよく理解してくれて、入院中や退院後の長男の世話などいろいろ援助してくれました。両親たちの支援がなければすぐに手術の予約ができたかどうか、本当にありがたかったです。

手術は平成9年8月4日に受けました。摘出したのは、子宮筋腫40グラム、粘膜下筋腫15グラム、内膜ポリープ20グラムで、量はそれほど多くはありませんでしたが、出血しやすいタイプの筋腫だったと後で斎藤先生から聞きました。

手術後、先生に「2人目がほしいんですけど」と、妊娠の可能性を聞いたことがあります。先生は「その可能性はありますよ」という言い方をされましたが、そういう質問をした私自身、まさか本当に妊娠できるとは思っていませんでした。次の妊娠より、まず健康な体で子育てをすることが私の望みだったのですから。

術後は貧血もなくなり、生理の量も痛みも「正常な生理ってこんなものだったの？」と驚くほどで、とても元気になりました。もう青い顔をして公園に行くこともなく、活発に動きまわる長男の相手をして疲れを感じなくなって、健康になったことを実感する日々でした。

妊娠がわかったのは手術から1年半がたった平成11年の3月です。その時の気持ちは、「まさか」という思いと、きっとこういう日が来ることを確信していたような「やっぱり！」という思いが入り混じったものでした。

手術室で手術に立ち会った主人は、メスの入った子宮を目の当たりにしているので「本当はあきらめていたよ」と驚きを隠せない様子でした。もし1年半前に斎藤先生に出会うことなく、大病院で全摘手術を受けていれば妊娠の可能性すらなかったのですから、この妊娠は私たち夫婦、そして手術を応援してくれた両方の両親にとっても、本当に嬉しい贈り物でした。

元気な妊婦生活、そして出産

妊娠中は長男の世話をしながらも助産院の母親教室でエアロピクスをしたりして、最初の妊娠の時よりも元気な妊婦でした。むくみや過剰な体重増加もなく、きわめて順調な経過をたどって、妊娠38週の10月21日に出産。体重2,674グラムの元気な女の子が生まれました。

出産したのは世田谷の国立病院ですが、初診の時に、広尾で受けた保存手術のことを覚えておいてもらおうと思い、斎藤先生が作ってくださったファイルを持って行きました。病院の先生はとても興味深そうにファイルに見入り、こういう手術が行われていること、そして手術後に妊娠したことに驚いている様子でした。

出産は帝王切開でしたが、この時に先生たちの驚きは倍加したようでした。どこにも癒着がなく、とてもきれいな子宮だったということです。術後の癒着を防ぐために手術時に癒着防止シートというのを使用することがあるのですが、執刀した先生から「癒着防止のシートを使ったのですか」と聞かれ、「使っていないと思います」と答えると、そのことにも驚かれたようでした。

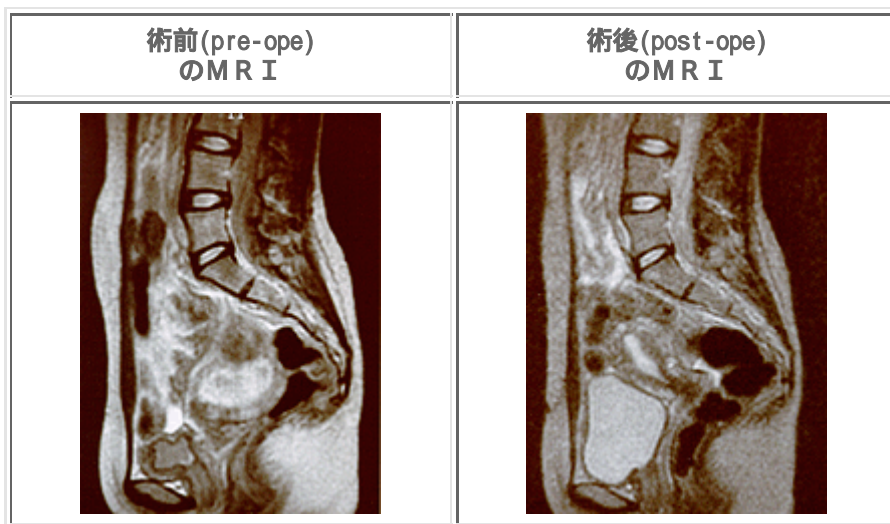
出産後に「もう一度ファイルを見せてほしい」と頼まれました。産婦人科の先生たちでご覧になったようで、手術の費用についても聞かれました。金額を伝えると、「これだけの手術であれば妥当な金額ですね。いや、こうやって赤ちゃんが授かれば安いかもしれません」とおっしゃいました。

斎藤先生の手術がどこの病院でも行っていない類まれな技術であるために、反感をいじめて正当に評価しようとする医師も多いと聞いていましたが、この病院の先生たちはそうではありませんでした。敬意をもって斎藤先生の技術力を認めてくださったことを、私はとても嬉しく思いました。

この時に生まれた女の子は、もう9ヶ月。母乳だけですくすく育っています。毎日、ベビーカーでお兄ちゃんの幼稚園の送り迎えに付き合わされていますが、お日様をたくさん浴びて元気いっぱいです。人見知りをするようになって、片時も離れませんが、それも順調な成長の証拠。忙しいけれど楽しい毎日です。

健康な体で長男を育てたい、との一念で広尾で手術することを決断した私ですが、手術から3年後にこのような幸せな日々を過ごしているなんて想像もしていませんでした。どのような治療を選択するかで、その後の人生は

大きく変わってしまいます。そのことを身をもって体験した私は、このホームページを読んでくださっている方たちにも幸せにつながる選択をしてほしいと願っています。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	478	421
血色素(Hb)(g/dl)	13.3	13.1
ヘマトクリット(Ht)	40.5	39.4
備考	摘出物： 子宮内膜腔に突出した 粘膜下筋腫 15g 子宮筋腫 40g 内膜ポリープ 20g	

「殆ど無症状だった私の場合」

健康診断で筋腫を発見

体験記を書かれた方の多くが、生理にともなう激しい症状を経験され、最後に広尾での手術という経過をたどられているようですが、私の場合は子宮筋腫の存在を指摘されてはいたものの、これといった自覚症状はありませんでした。生理の量は始まって2日目に注意をはらえば、特に問題なし。貧血もなくヘモグロビンの値は一時、標準値の最大を超える値でした。頭痛・腰痛・肩こりなし。血色のよさは他人が褒めてくれる数少ないポイントのひとつでした。しいて言えばお小水が多少、近いかなと思われたこと。お腹が出ていてスニーカーの紐をむすぶのがとても大変だったことでしょうか。こんな私ですが皆様のご参考までに、広尾での手術を決める迄の経過をお知らせします。

海外勤務者に対する手厚い会社の健康診断のおかげで、一次帰国の際に行われたMRI検査の結果、子宮筋腫が腹腔のかなりを占めるまで大きくなっていることがわかりました。3年3ヶ月の勤務を終え本帰国した後に、会社の嘱託医から婦人科での専門的検査を勧められました。女医の診断を希望したところ、T女子医大第二病院の教授への紹介状を持たせてくれました。休暇をとって、そのT女子医大第二病院へ出向いたところ、女性教授の診察室へ入る前の待合室に民放のテレビ番組に出演した時の写真が大きく引き伸ばされ、額にいれて飾ってあるのを見て一瞬、「ちょっと違うんじゃないかな～」と嫌な予感がしました。

嫌な予感はあたりました。まさに皆様が体験談で述べられているとおり、患者自身の個々の事情にまったく頓着せず、事務的に子宮の全摘出を告げられ、手術日の予約を勧められたのです。突然、自分の臓器の摘出を宣言され、まごついていて私に対して、何ら人間的な配慮のある言葉もなく、筋腫の大きさと患者の年齢から当然といった物言いでした。そしてその女性教授は、さらに質問しようとする私をさえぎって、「次の方を呼んでください」とカルテから目をはなさず看護婦に告げ、次の患者を呼ばせました。患者への配慮のなさ以前に、人間として失礼な人だと思いました。

厄介物を21世紀には持ち越さない決心

女性の健康に重要な役割をはたすホルモンに関係する子宮を盲腸のように簡単に摘出していいわけがないと漠然と思っていたので、年齢と筋腫の大きさのみで子宮の摘出が簡単に宣告される現実と直面してとても当惑しました。病院からの帰りに図書館より、斎藤先生の本も含めて子宮筋腫に関する本をすべて借りてきました。その後、読んだ本も含め10冊以上読んだ結果、筋腫に関してはひとかどの知識を持つようになりました。その後、広尾のWEBサイトも見つけました。

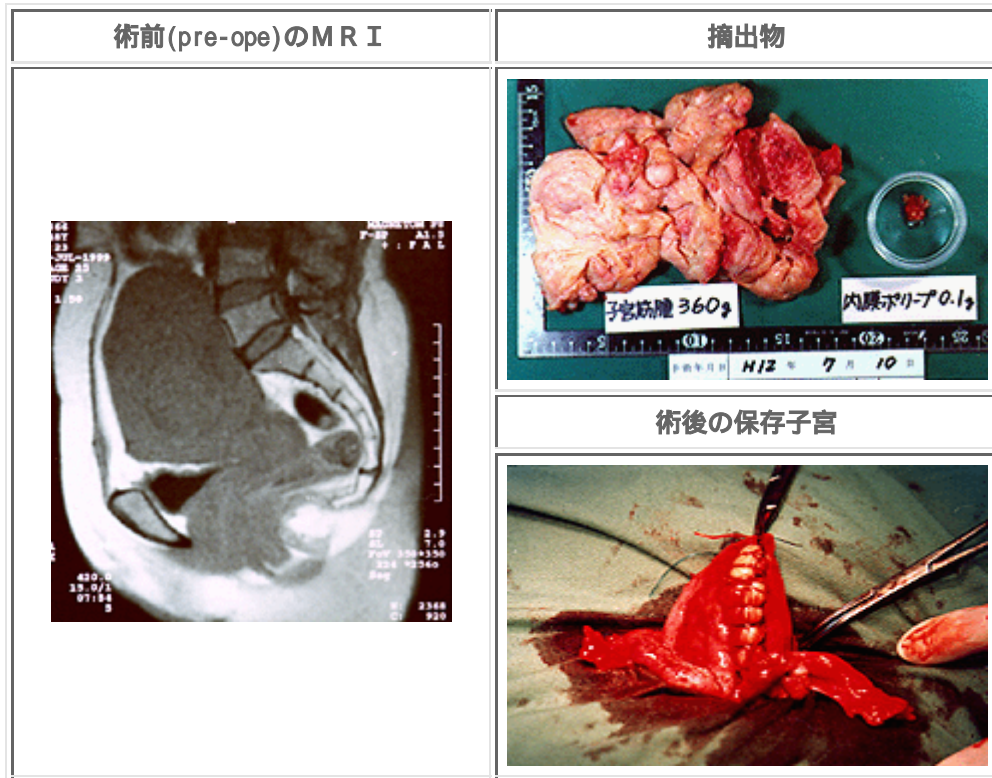
筋腫が小さければ、そのまま閉経まで滑り込むという選択もあると思いますが、私の場合は筋腫が赤ちゃんの頭大(たしか直径10センチ)といわれていて、既に膀胱が多少、圧迫されていることがレントゲンで確認されていました。頻尿はまだしも、お小水がでなくなり70歳や80歳になって開腹手術を余儀なくされることはぜひとも避けたいと思っていました。21世紀までこの厄介物を持ち越さない、20世紀中にどうにか決着をつけよう、気持ちが少しずつかたまっていきました。

自分の納得のいく選択

斎藤先生独自の技術の確かさはご著書やこのWEBサイトの体験談を読むことにより確信するに至りました。しかし、全摘手術を受ければ子宮ガンの心配のなくなること、広尾での手術にはは保険が適用されず費用が高額であることなど、子宮温存手術を決心するまでに多少の気持ちの揺れはありました。結局卵巣だけ残して、子宮を全摘するという平衡を欠いた状態がもたらす私の心身への悪影響と、子宮ガンのリスクを残すことの両方を天秤にかけ、自分の納得のいく、そして後悔しない手術方法を選んだ結果、斎藤先生に手術をお願いすることにしました。

2000年7月10日に手術を受け、その後の回復は順調で、入院とその後の自宅療養を含め2週間の休暇をとただけで7月24日には仕事に復帰できました。心配していましたが通勤も問題なく1ヶ月後といわれていた自転車にも退院した翌週の金曜日には乗っていました。

齋藤先生の人間国宝級の技術が齋藤先生一代で終わってしまうのは、全女性にとって大きな損失です。今後は後継者の育成についても先生のパワーを傾けていただき、二代目齋藤流一匹狼が複数、養成され、子宮を残したい多くの女性の願いが未永くかなえられることを希望しています。



	術前 (pre ope)	
赤血球(RBC)	476	
血色素 (Hb)(g/dl)	14.9	
ヘマトクリット(Ht)	44.8	
CA-125	27	
備考	摘出物： 360.1 病理： leiomyoma endometrial polype	

「私の人生の分岐点になった暑い夏」

人生の中で一番暑い夏のはじまり

私は、福島県で働きながら週末は横浜にいる彼と過ごす楽しい日々を送っていました。

8月1日、彼と内心ドキドキの妊娠検査をするため彼の住む近くのごぢんまりとした医院に行ったことから、今までの人生の中で一番暑い夏が始まりました。結果は「妊娠しているけれども産めないかも」と言うことでした。

子宮筋腫が異常に大きく、その医院ではどうすることもできないということだったのです。何も言えないままそこを出て、彼と入った喫茶店では、何故か涙が止まりませんでした。

翌日は福島へ戻る予定でした。私は予定通り帰るつもりでした。とにかく赤ちゃんがいると分かっただけでもうれしい事実でしたし、まさか産めないとは思えなかったからです。

いろいろ調べてたどりついたのが広尾でした

彼は本で調べたり、得意のインターネットで”子宮筋腫”を検索したりと、言葉には出さないけれど、私以上に私の体を考えてくれていました。

滋賀県に子宮を保存する病院が有るようでした。しかし、動脈塞栓術でしたから子宮への血液を止めるということは子供への栄養を断ちきることであり、妊婦にはできない治療でした。

彼が検索し、たどり着いたところはレーザー治療をする広尾メディカルクリニックでした。そこには私と同じ症状を抱える女性達の声がたくさんあり、元気に赤ちゃんを産んでいるとの報告も有ったほどでした。

8月2日、私には、また同じことを言われるかも知れないという恐怖心と、触診される嫌悪感が有り、あまり気が進みませんでした。彼は多くの情報から自分なりに納得していた様子で、おっとりしている彼には珍しく広尾メディカルクリニックを強く勧めました。

あっという間に決めてしまった手術

私もやっと自分自身の体が、ただ事ではないと気付き始め、広尾メディカルクリニックを訪れたことを覚えています。斎藤先生は、優しいというよりは、力強いまなざしをしておられ、始めから彼も一緒に話をし、触診することもなく、エコーを見るときもオープンだったのが驚きでした。

しかし、先生の言葉は近くの医院で告げられたよりも、もっと厳しいもので「このままでは流産する」と断言されたのにはショックでした。しかもその後にはもう二度と妊娠できない体になると言われ、その時、彼が冷静にその事実を受け止めてくれていたことが私には救いでした。

法定外の治療のため、保険不適用とは痛いですが、先生からの詳細な説明と彼の勧めで、先生にゆだねてみようという気になりました。まるで賭事のように手術は来月初めの9月4日に決めてしまいました。

家族の説得

さて、安静を要する身でありながら福島県へ取り急ぎ帰り、仕事の長期休暇を取りあえず出しました。そして今考えればそれは手術を受けるよりも大変な両親への私の体の状態の説明と説得が有りました。もちろん彼には何度か足を運んでもらっての説明でした。

手術の日取りを決め、仕事も休暇をもらい、すぐに彼の部屋で安静な日々を送りました。でも、母と、看護婦をしている叔母は私達の決断に納得できない様子でした。

その後も二人の勧めで大学病院へ行き、再度検査してもらったり（ここでどう言われるかは、他の人の記事にも有る通り「様子を見ましょう」です）

また、先生のもとへ母と叔母を連れて再度説明を聞きに行ったりしました。

それでも先生は丁寧に冷静に私の症状や手術法について話して下さいました。（同時期に入院していた女性も実の母親の説得には苦労したと聞きました。）

女性のための治療や病気の考え方を最も理解できないのは女性なのかも知れません。

手術を受けて、普通の妊婦に

そんなこんなで手術の日迄はあっという間でした。

妊娠しているため手術はごく少量の麻酔で行われました。そのため開腹中から具合はすこぶる悪く、早く終わらないかという気持ちが手術中流れる音楽をかき消すほどでした。

時々見える先生は納得いくまで十分時間をかけて手術を行っている風でした。345gの筋腫を摘出して、手術が終わり、先生がとても優しいまなざしで「手術は大成功だよ。これで赤ちゃんも無事生まれるよ」と言って下さったときは、うれしくて涙が出ました。

その日は痛くて眠れませんでした。「赤ちゃんのため」と頑張り通しました。

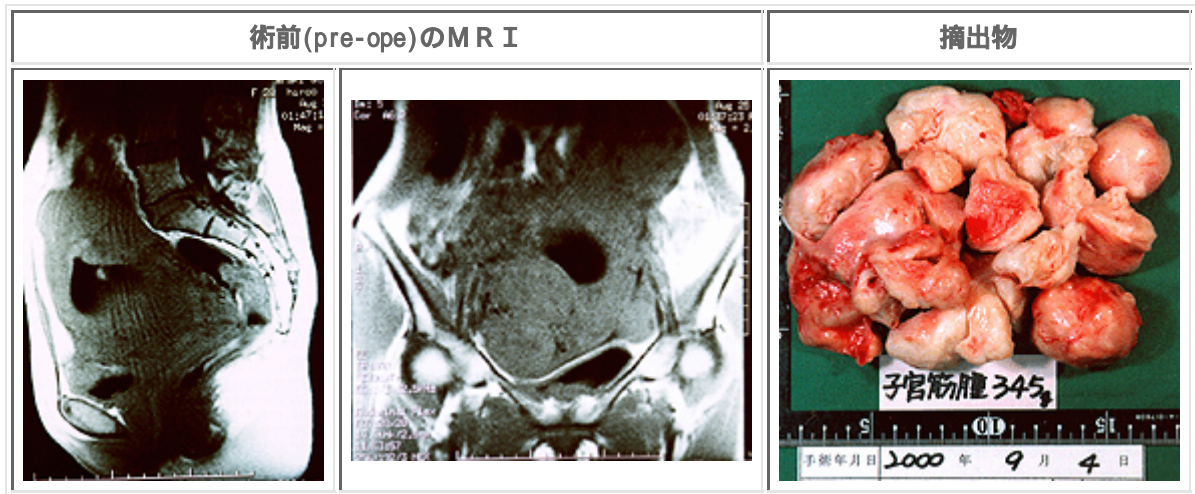
翌日は歩けるまでに回復するのが驚きです。土曜の退院までには日常生活を送るには十分なまでに体が戻っていたように思います。（周りからはそう見えなかったようですが...）

さて、今後は普通の妊婦です。彼との生活も考えないと。

先生が心配して下さいした仕事は、彼に甘えさせてもらい、続けることに。彼へ。当分今と同じ生活が続くけれどよろしく願いますね。一時は、なるようにしかならないと投げ出そうとした私の人生。その流れが大きく大きく変化したこの暑い夏。

その人生の分岐点に立って下さった斎藤先生に感謝しています。ありがとうございました。

今年はオリンピックの年。私は無我夢中で「筋（きん）」をとりました。選手の皆さまも念願の金が取れますように。そしてこのページをご覧の方も。



	術前 (pre ope)	
赤血球 (RBC)	387	
血色素 (Hb) (g/dl)	12.0	
ヘマトクリット (Ht)	34.7	
備考	妊娠 5 週 (初診) 妊娠 9 週 (筋腫摘出術) 摘出物 : 345g	

「私の子宮腺筋症闘病回想」

J.T. (41才)

子宮だけは取りたくない

今、私は健康を取り戻し、なによりも痛みのないこの喜びを、この病気で悩む患者さんすべてに知っていただき、一日も早く広尾メディカルクリニックの扉をたたいてほしいと心から願っております。

私が子宮腺筋症という病名を知ったのは、10年前の発症後から3年たって、ある病院で「おなかを開いて中を見ないと何とも言えない」と言われ、手術をした時に知りました。その時には「悪いところがたくさんありすぎて取りきれないから、そのままおなかを閉じました」とだけ言われ、取り出されたのは3cmくらいの肉片がひとつだけでした。

それから子宮関係の本をくまなく読んで、「子宮筋腫と子宮腺筋症は根本的に全然違う病気であり、子宮腺筋症の方がさらにやっかいな病気で、直す方法は子宮全摘しかない」というのが大半の現代医学に、どこかで打ち消したい思いでいっぱいでした。しかし、子宮だけは取りたくない一心で、その後いくつもの病院にかかりました。

広尾メディカルクリニックに行くまで、家の近くの個人病院から東急東横線沿線の病院（川崎市中原区・武蔵小杉の聖マリアンナ病院、川崎労災病院、東京・自由が丘の奥沢病院）、もちろん東京都内の病院（東京厚生年金病院、国立ガンセンターほか中小クリニック）にいたるまで、藁をもすがる思いで診てもらいました。

病院の診断は、「子宮が人より大きいこと」を指摘され、皆さんが言うておられるようにただ「様子をみてみましょう」といわれるだけがほとんどでした。

もちろん、スプレキュアも合計すると4年くらい試みましたが、最後にはスプレキュアも、ひどい吐き気と頭痛の副作用と、骨粗鬆症という問題で断念せざるをえませんでした。

年齢を重ねるごとにひどくなる生理痛と、レバーのような血の固まりに加えて、その量の多さは信じられないくらいで、毎回の生理は子宮が存在自体を主張しているような痛みでした。痛さは毎回極限で、何度子宮を取ってしまおうかと思ったかしれません。仕事もしていたので、生理の2日間は必ず有給休暇を取らざるをえず、どうしても休みが取れないときにはムリをして会社に行きましたが、仕事どころではなく、あまりの痛さで頭の中は真っ白でした。

手術の2年位前から、生理でないときにも子宮の痛みを感じるようになり、左足の太ももも生理のときに一緒にひどく痛むようになってきました。

体験談レポートを読んで

朝起きてから夜寝るまで、毎日子宮のことを考えない日がないほど痛さで苦しんでいた今年（平成12年3月）、会社の同僚がいろいろなホームページを紹介しているパソコンの本を貸してくれ、そこで広尾メディカルクリニックのアドレスを知りました。

広尾メディカルクリニックのホームページ内では患者さんが自ら語った症状とか写真が載っていますが、最初は私もそれを信じてよいかどうか疑いましたが、読み進むうちにあまりに患者さんの諸症状が私が経験した症状そのものなのに驚き、私だけではなくこんなにも多くの人達が苦しんでいたのかと思うのと同時に、自分だけ悩んでいたのがずっとやわらぐ気がしました。

さらには、そのクリニックの斉藤先生の手術で、生理のつらさから解消されたと全員の方が書いてあるので、まさに地獄で光明を見る思いがしました。読み終わった時には、あの生理が軽くなるんだ、という期待と喜びの気持ちで、もう迷わずに広尾メディカルクリニックに初診の予約の電話をいれていました。

初診は平成12年3月3日でしたが、手術の予約は7月3日でした。正直いって、こんなに混んでいるとは思いませんでした。こんな痛い思いをしているのは世界で私一人だけだと思っていたので、すぐに予約はとれるもの

と思っていたのです。私以外でも同病の人たちがこんなにいたのは、不思議にあの痛さを共有できる友人のような気がしました。

手術までの痛みと手術の痛み

手術までに3回は、またあのひどい生理痛と戦わなくてはと思い、生理がくると、「あと2回、あと1回我慢すれば楽になれる」と歯をくいしばって痛さに耐えました。

しかし、その最後の3回目の生理の時には、今までの痛みの集大成のような激しい生理痛と、おなかを暖めるために入ったお風呂場で、熱いシャワーをかけながら、あとからあとから全開した蛇口のように湧き出る大量の出血と大量のレバー状のもので、お風呂場から1時間も出られない状態が数日も続きました。

さすがに数日も続くと貧血になり、家の中で数歩歩くのでさえ目の前が真っ白になって、深呼吸をしないと歩けなくなり、何度も救急車を呼ぼうかと思いました。生理が始まって3週間たっても、痛みと出血はさらに勢いを付けて増すばかりでした。

手術の事前検査で指定病院の佐々木病院に行く日も体調は最悪で、何度も貧血になり、駅の医務室で休んだりして、佐々木病院に到着した頃には早く横になりたい一心でした。

佐々木病院では、案の定貧血と診断され（ヘモグロビンの数値は6.5）、そのまま輸血のため1週間入院しました。輸血は初めてで最初は副作用で高熱もでしたが、手術で絶対に健康を取り戻すという信念で、子宮の痛さもまだありましたが、あと少しで楽になると自分に言い聞かせ、最後の痛みに耐えました。

佐々木病院の退院と同時に広尾メディカルクリニックに入院し、私の場合、手術中は麻酔があまり効かなかったせいかわかっているのが感覚的にわかり、斉藤先生が一番大きい肉片を取った時には、以前からおなかの上からでも触れてわかるくらいのものであったので、きっとそれだろうと手術台の上で思いました。

手術は約2時間で終わりましたが、痛みで眠れないその夜さえ我慢すれば、生理の痛さから比べたら、今考えると簡単なことだったとさえ思えてきます。

10年ぶりに痛みのない生理

術後、自分を長年苦しめてきたピンにはいったモノの正体を見たときには、驚きました。あの一番大きい肉片もありました。以前に広尾メディカルクリニックの手記を読んでいた時に「あんな大きいものがあるなら漢方などで直るはずがない」と書いたあったのを思い出し、まったく同感だと思いました。取れたものは腺筋症部分410gと、内膜ポリープ0.1gでした。

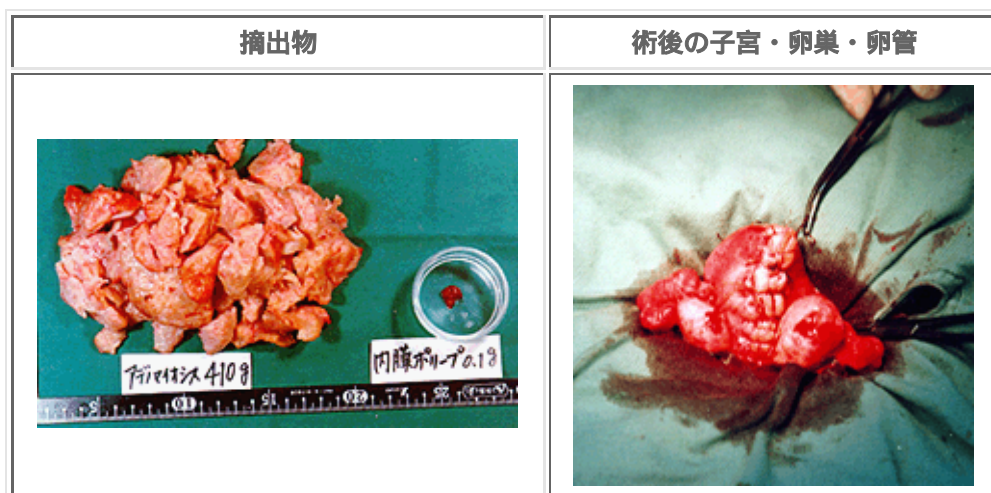
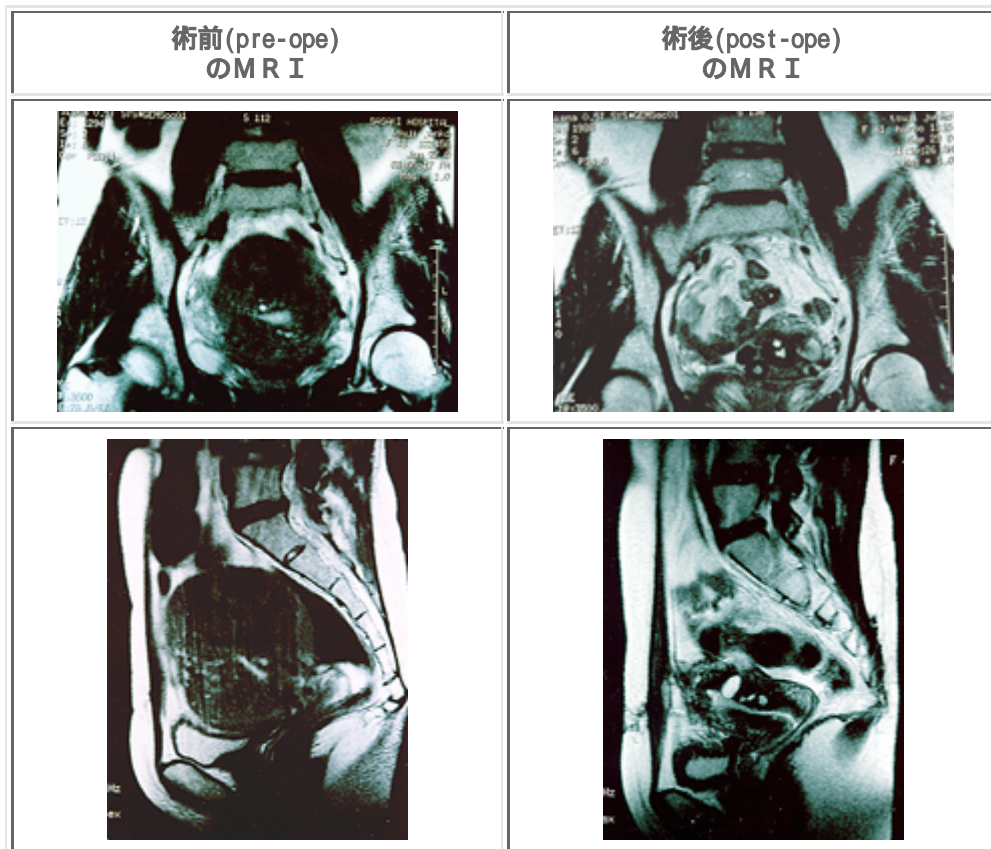
術後、斉藤先生から渡された個人別の手術のファイルは、本当に驚き感激しました。今まで他の病院でこんなものを頂いた人はいないと思います。自分の縫合された子宮の写真も、冷静に見ることができました。

退院後の生理も他の方の手記どおりで、「今までの100分の1に減る」どころか、私の場合は「1000分の1」でも大袈裟ではないと思います。一番大きいサイズのナプキンを買うことなしに、普通サイズのナプキンで生活できるなんて、今までだったら考えられないことです。貧血もなくなり、今ではヘモグロビンの数値も13.6となりました。もちろん、10年ぶりの痛みのない生理のうれしさは言葉に現すことはできません。改めて斉藤先生のすごさに圧倒されました。

私が思うのは、これも手記に書いてあったことですが、「斉藤先生には長生きしていただいて、もっとこの病気で悩む患者さんを一人でも多く助けてほしい」ということです。おそらくきっとこの病院を退院した患者さんなら、誰でもそう思っていることと思います。

斉藤先生はじめ看護婦さん達には大変お世話になりました。改めて感謝致します。斉藤先生、いつまでもお元気で、苦しんでおられる患者さんを救ってください。

最後になりましたが、私に質問がある方はいつでもメールをお待ちしております。メールアドレスは CYQ07505@nifty.ne.jpです。みなさんが広尾メディカルクリニックで早く健康になられますよう、心より祈っております。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	326	447
血色素(Hb)(g/dl)	8.1	13.6
ヘマトクリット(Ht)	24.8	39.9
CA-125	130	11
備考	摘出物： 腺筋症 (Adenomyosis) 410g 内膜ポリプ (Polyp) 0.1g	

「症状がないのに筋腫があると診断されびっくりしました」

症状はなかったのに

今から12, 3年前に初めて子宮ガン検診を受けたときに、「握りこぶし大の筋腫がある」といわれました。生理痛もひどくなく、出血量も多くない私は、それを聞いたときには、びっくりしました。

その後、毎年一回の検査のたびに、「かなり大きくなっているの、いろいろな弊害が出てきたら、そのときは、全摘手術になるね。」といわれてきました。私としては、子供を産む計画がないのなら、子宮を残しても無駄だから、取ってしまえばいいという発想が、なにかとても乱暴なことに思え全摘手術は、絶対に嫌でした。どの先生も全摘手術について、とても軽く考えているような印象を受けました。

スプレキュア治療も試みましたが、その場しのぎの治療で、副作用もあるし、最初から納得できなかったので、2, 3回で辞めました。筋腫が小さくなるという漢方の本等も読みましたが、「効く人には、効く」というような、あてにならない薬に高額な費用をかける気になりませんでした。

悩んでいるときに会ったホームページ

そうこうしているうちに、筋腫は、どんどん大きくなり仰向けに寝てもお腹がポッコリ出るようになり、触ると硬い固まりがいくつもあるのが、分かるようになりました。食事をするとお腹がすぐにとても苦しくなり、ガスもたまるようになりました。便秘もひどくなりました。

丁度、その頃に親友が全摘手術を受けることになり、私もいよいよ全摘かなと思いはじめようになりました。でも、なかなか決心がつかず悩んでいるときに、インターネットで「子宮筋腫」を検索したら、このホームページに出会えたのです。

全摘しないで、子宮筋腫をひとつひとつレーザーで摘出する手術法だということ、先生の優しそうなお顔、沢山の体験談、それに病室が日本の病院には珍しく、個室で、それぞれに化粧室もついているし心地よさそう！このホームページを見つけた時は、本当に嬉しかったです。

手術を決めるまで

2月に友人と斎藤先生にお会いするために、クリニックを訪れました。ホームページにある通り、病院は、温かみのある雰囲気、先生は、ゆっくりお話を聞いてくださるし、ここだったら、そしてこの先生だったら安心して、おまかせできるなという確信を深めました。

ただ、自費ですので、かなりの費用がかかる為、最終的に決心して、手術の予約をいれるのに、更に3ヶ月かかりました。

6月26日が手術日と決まり、その2週間前にクリニック近くの佐々木病院で、MRI検査、CT検査、血液検査などを行いました。そして、クリニックにその足で検査結果を持っていき、写真を見ながら、先生のお話を伺いました。

ちょうど、2階のサロンにいらした、入院中の患者さん達にも体験談を直接お伺いすることが出来ました。

手術中ドラマチックな気分になりました

手術当日朝9：00に入院。私は、3人の患者さんのなかで、一番最後でしたので、看護婦さんに呼ばれる15：30まで、ずっと飲まず食わずのまま、病室でテレビをみたり、本を読んだりして過ごしました。ようやく看護婦さんに呼ばれて手術室に歩いていきました。細長い手術台にのぼって、背中に麻酔注射をされる時、とても怖かったです。お腹を切られるときに麻酔が効いていなくて、痛かったらどうしようとか、想像たくましくいろいろな事を頭を駆け巡っている間に準備が終わり、先生が手術室に入っていました。

手術が始まると（どうやら始まったらしいという感じ。）両側から音楽が聞こえ、何かドラマチックな気分になりました。下半身だけ麻酔が効いているので、かなり意識は、はっきりしています。こんなに緊張していて、最後まで耐えられるのかとても心配でした。

後半一時間位は、歯の根があわないくらい、寒くて震えたのをおぼえています。手術時間は、3時間でした。

病院生活が楽しくなってきたころに退院でした

部屋にもどってからは、吐き気がひどかったです。麻酔が切れたら、きつともすごく痛いだろうなと覚悟していたのですが、思っていた程じゃなくて、それより、お腹の管や、脊椎に入っている麻酔の針、腕の点滴、尿をとる管などで、体ががんじがらめで動けないのと、喉がカラカラなのがつかなくて、その夜は、あまり眠れませんでした。

翌日先生が私の筋腫の入った袋を見せて下さいました。1,370gというすごい量でした。

次の日から点滴以外は、管がつぎつぎとはずされ、身軽になり、トイレにも自力でいけるようになりました。お腹の傷は、動くとき痛けれど何より自分で少しづつでも動けるようになるのが、嬉しかったです。

なにしろ6日目には退院ですから、のんびり寝てもいられません。出来るだけ普通に歩けるよう、廊下を往復したり、2階のサロンまで、階段を登ったり降りたり歩く練習をしました。

他の患者さんのお部屋を訪ねたり、外来でいらした方のインタビュー（？）に答えたりと、病院生活が楽しくなってきたころもう退院です。

私は、友人2人に迎えに来てもらい、東京の自宅まで送ってもらうことになっていたのですが、電車に乗ったり、駅の階段を登り降りするのは、少々不安でした。土曜日の朝お部屋で、宅急便で送るものなどを箱に詰め用意していると、先生がお部屋にいらして、「これから東京の自宅に帰るから、車で送ってあげるよ。」という嬉しいお言葉！に甘え、もう一人の患者さんと一緒に先生の車で自宅まで送って頂きました。丁度アメリカにお住まいの息子さんご夫妻も一緒に、息子さんには、玄関まで荷物を運んでいただきました。

エネルギーがみなぎっている感じ

帰宅して4日目の午後くらいから、じっとしていることにすっかり飽きてしまって、友人を誘って食事にいったり、パーゲンにいったりと、日に日に元気になりました。

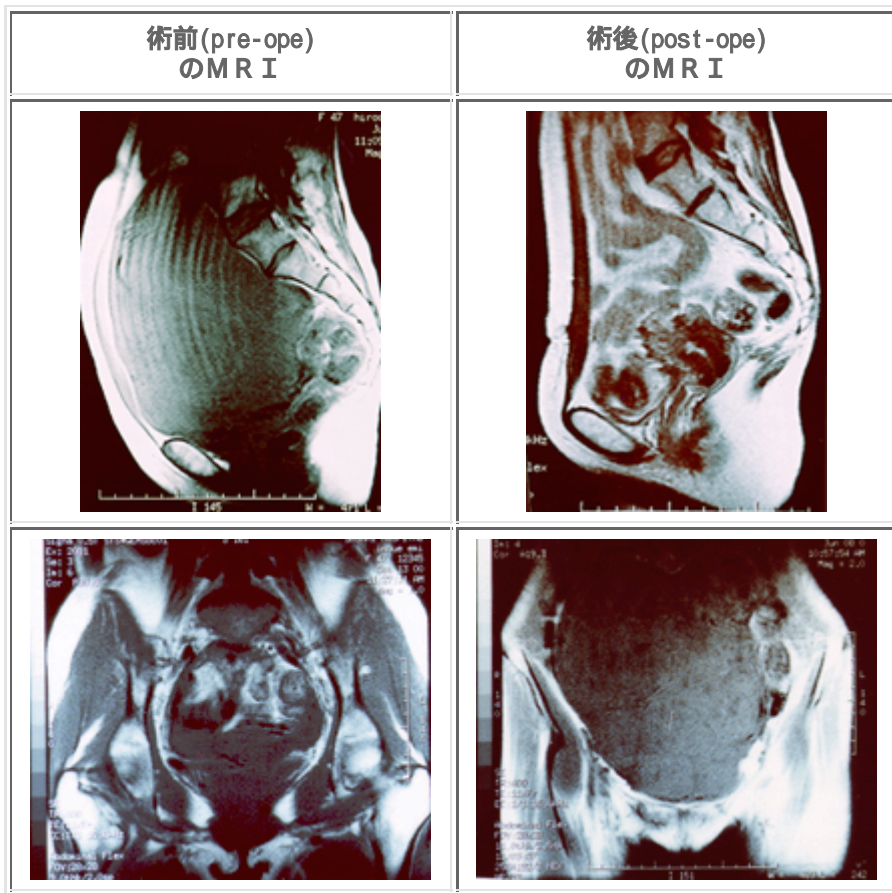
6日目には、美容院に行き、7日目からは、出社しました。歩き方が少し遅いくらいで、とても2週間前に手術したとは思えない程、めきめき元気になりました。周りからは、予後が大事だから、あまり無理しないほうが良いよ。と心配されるくらいエネルギーがみなぎってきて、じっとしていられませんでした。

今までポッコリ出ていたお腹は、すっかりペチャンコになり、やわらかいし、便秘もしなくなり、快適です。せっき筋腫分の体重が減ってお腹がスマートになったので、今度は脂肪がついてお腹が出ないよう、気をつけています。

10月に術後のMRI検査結果を持って、斎藤先生にお会いしました。今まで、子宮でうめつくされていた感じのお腹が今度は、子宮も元の大きさにもどり、他の臓器も見えるようになりましたので、普通に帰ったと実感しました。

時々、先生にお土産に頂いた'思い出のアルバム'(術前、術後の写真や検査データ、手術中の記録などがファイルになったもの)のページを繰って、いかにすごいものを抱えて生きてきたかを改めて実感し、ほんとに先生に手術して頂いてよかったとしみじみ思います。

先生そして入院中きめ細かくお世話していただいた看護婦さん達、ありがとうございました。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	420	490
血色素(Hb)(g/dl)	13.1	14.0
ヘマトクリット(Ht)	37.4	41.7
備考	摘出物：1370g 病理：平滑筋腫(leiomyoma) 術前ホルモン剤で生理をコントロールしているので血液の状態は良好	